

市町村名	名護市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	やがじ夢の懸け橋事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-イ 圏域の特色を生かした産業の振興	
担当部課名	地域経済部	屋我地支所	事業実施 年度	平成 27	平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	屋我地地域において、地域観光産業の振興や定住促進を図るため、同地域におけるツーリズムに関しての地域振興計画を策定するとともに、民泊事業者と連携したモニターツアー、ワークショップ等を実施する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H27年度	H28年度	H29年度		合計	
	A. 予算現額	4,200	4,774	6,480	—	15,454	
	B. 執行済額	4,177	4,754	6,447	—	15,378	
	うち 交付金充当額	3,341	3,803	5,158	—	12,302	
	執行率(%) (B/A)	99.5%	99.6%	99.5%	—	99.5%	
執行状況の説明	・執行率が各年度とも99%以上となっており、適正に執行できた。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H27年度	H28年度	H29年度		
	モニターツアー実施	目標	実施	2回	1回	—	—
		実績	実施	1回	1回	—	—
	ワークショップ実施	目標	3回	4回	4回	—	—
		実績	4回	3回	2回	—	—
振興計画の着手	目標	—	—	実施	—	—	
	実績	—	—	実施	—	—	
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H27年度	H28年度	H29年度		
	モニターツアーの参加者(旅行者等)	目標	5社	30名	16名	—	—
		実績	7社	11名	7名	—	—
	ワークショップの参加者	目標	90名	60名	60名	—	—
		実績	45名	45名	59名	—	—
振興計画の策定完了	目標	—	—	1件	—	—	
	実績	—	—	1件	—	—	

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度	
	修学旅行受入校数	目標	—	—	—	—	140校
		実績	83校	82校		—	
	目標						
	実績						
状況説明	<p>【H30年度】 ・修学旅行生の民泊受入については一定の受入数はあるが、修学旅行等の誘致を拡大できるプログラムが少なく、目標達成には至っていない。</p> <p>【R1年度】 ・令和元年度の受入校数は平成30年度より1校減となったが、修学旅行受入人数は17,605名であり、平成30年度の16,612名から増加している。</p> <p>【 年度】 ・</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【H30年度】 ・本事業で策定した振興計画に基づき、魅力的な体験プログラムを開発することで、継続的に修学旅行の誘致を図っていくため、地域資源を活用した体験施設整備を進めることに繋がった。</p> <p>【R1年度】 ・農業体験施設が稼働し、施設を有効に活用し運営できる団体へ指定管理を行った。現在、修学旅行の受入窓口が既存1社のみであるため、受入体制や宣伝活動を強化していく必要がある。</p> <p>【 年度】 ・</p>			<p>【H30年度】 ・民泊事業者との連携を図りながら、地域における観光メニューの企画、実施や、整備を進めている体験施設を有効に活用できる団体等の体制の確立が必要である。</p> <p>【R1年度】 ・修学旅行の受入窓口について、島内他社と連携し、新規ルート開発を進める。</p> <p>【 年度】 ・</p>				
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【H30年度】 ・体験施設整備を進め、地域における魅力ある共通体験プログラムとして確立を図り、修学旅行生等の誘致を図る。 ・施設整備後については、民泊事業者との連携を図りながら、施設を有効に活用し運営できる団体等へ指定管理を行う。</p> <p>【R1年度】 ・修学旅行生等の受入体制や宣伝活動を強化するため、島内他社と連携してそれぞれの顧客を紹介、誘導して頂き、修学旅行受入校数の増を図る。また、農業体験施設については、利用者からの要望を元に、体験メニューがより魅力的なものとなるよう随時見直しを行う。</p> <p>【 年度】 ・</p>							

市町村名		名護市				
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】						
事業名	名護市食鳥処理施設整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ 農林水産物の安全・安心の確立	
担当部課名	農林水産部	園芸畜産課	事業実施 年度	平成 28 ~ 平成 28 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	新たな食鳥処理施設の整備に必要な用地を取得することによる事業環境の整備を通じ、食鳥処理施設の再編や県内鶏肉の衛生・品質管理の高度化を促進する。					
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		H28年度			合計	
	A. 予算現額	328,663	—	—	328,663	
	B. 執行済額	277,836	—	—	277,836	
	うち 交付金充当額	222,269	—	—	222,269	
	執行率(%) (B/A)	84.5%	—	—	84.5%	
執行状況の説明	農業振興地域計画の総合見直しに異議申し立てがあり、当該用地取得に必要な農地転用手続きに不測の日数を要したことから328,024千円を平成29年度へ繰越して実施した。 公有財産取得費において、実施設計により建物配置等が精査されたことから用地面積が17,668㎡から16,658㎡へ縮小されたことと、土地鑑定により、土地単価が概算値より減額となったため、40,661千円の不用額が生じた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況			
			H28年度			
	施設整備に必要な用地購入	目標	施設整備に必要な用地購入	—	—	—
		実績	施設整備に必要な用地購入	—	—	—
		目標				
		実績				
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況			
			H28年度			
	施設整備に必要な用地取得の完了 購入面積:17,668㎡	目標	完了	—	—	—
		実績	完了	—	—	—
		目標				
		実績				

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況					
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 目標/発現年度
	処理羽数(食鳥処理施設)		目標	15,000羽/日	15,500羽/日	16,000羽/日	16,500羽/日	17,000羽/日
			実績	13,503羽/日				
			目標					
		実績						
状況説明		<p>【H30年度】 ・平成30年度は建築工事等を行っていたため、処理羽数は計測していない、令和元年7月から供用開始しているため令和元年の目標値は15,000羽/日とした。</p> <p>【R1年度】 ・食鳥処理施設の処理羽数は13,503羽/日となり目標を下回っている。</p> <p>【 年度】 ・</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【H30年度】 ・施設整備事業の完了予定であったが、台風や県内の慢性的な職人不足の影響等により平成31年度へ繰越となり、令和元年7月より供用開始となっている。今後は協業化に伴う効率化、最新機器による処理・加工により衛生的で安全な県産鶏肉の処理羽数増加に期待できる。</p> <p>【R1年度】 ・食鳥処理施設の処理羽数が下回っていることについて、供用開始後の機器調整に時間を要したことにより、処理羽数が少なくなったことが大きな要因と考えられる。 今後は順調に処理羽数が伸びることが想定される。</p> <p>【 年度】 ・</p>				<p>【H30年度】 ・R1年7月供用開始。今後は施設の指定管理者や関係機関と協力し成果目標達成に努める。</p> <p>【R1年度】 ・随時状況を確認し、目標達成に係る課題の抽出、必要な支援を行う必要がある。</p> <p>【 年度】 ・</p>				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
<p>【H30年度】 ・定期的な施設利用状況の確認や収支決算書等の確認を行い、関係機関と協力しながら成果目標達成に努める。</p> <p>【R1年度】 ・毎月の稼働状況報告の確認、必要に応じてヒアリング等を実施し、目標達成に係る課題の抽出、必要な支援を行う。</p> <p>【 年度】 ・</p>								

市町村名	名護市					
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】						
事業名	名護・やんばるの自然と文化拠点施設整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-イ 圏域の特色を生かした産業の振興
担当部課名	名護市教育委員会	博物館	事業実施 年度	平成 30	~ 平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-3-(2)、Ⅲ-12-(3)
事業内容	名護・やんばるの観光振興及び自然や文化の保全・継承に寄与することを目的として、地域の自然と文化に関する情報収集、発信、研究などの機能を備えた総合的なガイダンス拠点となる施設を整備する。					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H30年度				合計
	A. 予算現額	68,443	-	-	-	68,443
	B. 執行済額	52,611	-	-	-	52,611
	うち 交付金充当額	42,089	-	-	-	42,089
	執行率(%) (B/A)	76.9%	-	-	-	76.9%
執行状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・施設計画(配置・形状)の見直しに伴い、造成設計業務内容に変更が生じたため、委託業務を減額した。 ・また、入札残による執行残もあり、15,832千円の不要が生じた。 					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況				
			H30年度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計(建築・展示)の実施 ・造成設計の実施 ・用地測量の実施 ・土質調査の実施 ・不動産鑑定の実施 	目標	業務実施	-	-	-
		実績	業務実施	-	-	-
	目標					
	実績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況				
			H30年度			
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計(建築・展示)の完了 ・造成設計の完了 ・用地測量の完了 ・土質調査の完了 ・不動産鑑定の実施 	目標	業務完了	-	-	-
		実績	業務完了	-	-	-
	目標					
	実績					

事業完了後の取り組み						
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況			
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度 目標/発現年度
	利用客数	目標	—	—	—	—
	実績	—	—	—	—	
状況説明	<p>【R1年度】 ・用地購入、実施設計(建築・展示)、造成工事等を実施し計画通り完了した。(R1年度からは交付金外で実施)</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
<p>【R1年度】 ・実施設計による比較検討により、博物館の特性に配慮した「建築の構造・設備システムの導入」や利用者の安全性を高めつつ、インシャルコスト・ランニングコストの低減に繋がる機能的な施設設計とすることができた。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>			<p>【R1年度】 ・令和4年度の開館に向けて、計画通り建築工事等を実施するとともに、管理運営に関するソフト整備を進めていく必要がある。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>			
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)						
<p>【R1年度】 ・実施設計の成果に基づき、令和2年度に建築工事等に着手する。また、ハード整備と並行して、市民や協力機関・団体との連携を密にし、開館後の管理活動に関するソフト整備を進めていく。</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p> <p>【 年度】 ・</p>						

市町村名	名護市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	国立療養所沖縄愛楽園土地等利活用基本計画策定事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア 国際的な沖縄観光ブランドの確立	
担当部課名	企画部	企画政策課	事業実施 年度	平成 30	~ 平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	名護市屋我地地区の地域振興に向けて、国立療養所沖縄愛楽園の未利用の土地等を利活用するための計画を策定する。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H30年度				合計	
	A. 予算現額	9,936	-	-	-	9,936	
	B. 執行済額	9,828	-	-	-	9,828	
	うち 交付金充当額	7,862	-	-	-	7,862	
	執行率(%) (B/A)	98.9%	-	-	-	98.9%	
執行状況の説明	・不用額は、委託事業者公募時の業務仕様に対する受託事業者からの提示額が当初予算を下回ったためである。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度				
	国立療養所沖縄愛楽園土地等利活用基本計画の作成		目標	基本計画書の作成	-	-	-
			実績	基本計画書の作成完了	-	-	-
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H30年度				
	国立療養所沖縄愛楽園土地等利活用基本計画の策定		目標	基本計画書の策定	-	-	-
			実績	基本計画書の策定完了	-	-	-

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成/進捗状況				
						R1年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目標	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果					
	策定した基本計画の中で、未利用の土地等の利活用方法等を設定し当該利活用方法に則した土地利用施策を実施する。	目標				土地利用施策の実施
		実績				実施
状況説明	【R1年度】 ・策定した基本計画に基づき、R1年度は協議会の設置・開催、事業化に向けた準備作業、関係機関の事務協議、民間事業者とのサウンディング調査を実施した。					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
【R1年度】 ・愛楽園職員及び入所者、地域住民等で構成された推進協議会を立ち上げ、年度内で3回の協議会を開催した。また、サウンディング調査を行い土地利用に意欲的な企業等の意見を聴取した。			【R1年度】 ・未利用地の利用について、沖縄愛楽園や入所者のご意向も踏まえ計画を進める必要がある。サウンディング調査についても、幅広い業種から意見を聴取する必要がある。			
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)						
【R1年度】 ・幅広い業種からの意見を聴取するため、引き続きサウンディング調査を実施する。聴取した意見をとりまとめ、利活用について協議会で検討を進める。また、未利用地の利活用について、手続等を円滑に進めるため、並行して関係機関等との調整を行う。						

市町村名	名護市	沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】						
事業名	轟の滝周辺整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-イ 圏域の特色を生かした産業の振興			
担当部課名	建設部	都市計画課	事業実施 年度	平成 24	～平成 29	年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	
III-1-(1)								
事業内容	魅力ある観光スポットを活用し、まちの活性化、観光振興に繋げるため文化財である轟の滝周辺を整備する。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	合計		
	A. 予算現額	128,638	110,000	168,000	200,000	606,638		
	B. 執行済額	128,609	109,978	168,000	200,000	606,587		
	うち 交付金充当額	74,960	87,982	134,400	160,000	457,342		
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		
執行状況の説明	・平成24～27年度は関係機関との調整や用地交渉に不測の日数を要し、翌年度に繰り越した。平成28年度は整備個所に隣接する石積みにひび割れ等が新たに確認されたため、工事範囲を見直す必要が生じ、翌年度に繰り越した。平成29年度は台風22号の豪雨により整備箇所に隣接する護岸が被災し、復旧工事が完了するまで着手できない箇所が生じたため、一部工事を平成30年度に繰り越しし整備を完了した。							
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況						
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・委託業務(資材調査、工事監理業務等) ・整備工事 ・用地買収 ・物件補償	目標	委託業務 1件 用地買収 9筆 物件補償 1件	委託業務 2件 整備工事 1件 用地買収 5筆 物件補償 1件	委託業務 6件 整備工事 2件 用地買収 10筆	委託業務 4件 整備工事 5件 用地買収 10筆	-	
		実績	委託業務 1件 用地買収 11筆 物件補償 0件	委託業務 2件 整備工事 1件 用地買収 5筆 物件補償 0件	委託業務 3件 整備工事 1件 用地買収 0筆	委託業務 4件 整備工事 5件 用地買収 9筆	-	
		目標						
		実績						
	目標							
	実績							
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況						
			H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	
	・整備に必要な用地取得 ・土木工事、建築工事の完了	目標	用地取得98% 施設設計完了	用地取得100% 整備工事完了	用地取得 建築工事完了 整備工事完了	用地取得100% 建築工事完了 整備工事完了	-	
		実績	用地取得97% 施設設計完了	用地取得100% 整備工事完了	用地未取得 建築工事未完了 整備工事完了	用地取得100% 建築工事完了 整備工事完了	-	
		目標						
		実績						
	目標							
	実績							

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成/進捗状況				
	<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 目標/発現年度
	年間入場者数	目標	-	-	-	8,500人	26,000人
		実績	-	-	-	13,008人	56,271人
		目標					
	実績						
状況説明	<p>【H30年度】 ・平成30年12月よりグランドオープンし、4カ月間の目標入場者数8,500人に対し約13,000人と大きく上回った。</p> <p>【R1年度】 ・令和元年度は目標入場者数26,000人に対し、約56,000人と大きく上回った。</p>						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
<p>【H30年度】 ・施設の入場者数は毎月増加していることから、当該施設の更なる活用促進が期待できる。</p> <p>【R1年度】 ・周辺観光施設等へのパンフレットの配布やイベントの開催等で入場者数は伸びている。</p>			<p>【H30年度】 ・周辺観光施設へのパンフレットの配布等で施設の認知度向上、魅力の発信に努める。</p> <p>【R1年度】 ・12月や1月の入場者数が落ち込む時期の対策やリピーターの確保方法を検討する必要がある。</p>				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
<p>【H30年度】 ・周辺観光施設等へのパンフレットの配布やイベントの開催等により、更なる活用促進に取り組む。</p> <p>【R1年度】 ・何度でも楽しめるような内容のイベント作りや、入場者数が落ち込む時期のイベントの開催を検討することにより、年間を通した安定的な誘客に取り組む。また、イベント広場のより効果的な活用について指定管理者との協議を行う。</p>							

市町村名		名護市				
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】						
事業名	観光地周辺環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-エ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	地域経済部	観光課	事業実施 年度	平成 29	~ 平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所
事業内容	市内観光地であり、国指定天然記念物となっている「嘉陽層の褶曲」に公衆トイレを整備し、観光客の利便性と満足度を高める。					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
事業期間中の 予算額・ 執行額 【単位:千円】		H29年度				合計
	A. 予算現額	19,929	—	—	—	19,929
	B. 執行済額	19,854	—	—	—	19,854
	うち 交付金充当額	15,883	—	—	—	15,883
	執行率(%) (B/A)	99.6%	—	—	—	99.6%
執行状況の説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に設置場所の再検討の要請があり、区との調整に不測の日数を要したこと、また、工事の入札不調により平成30年度に繰越して実施した。 最終的な執行率は99.6%となり、概ね計画的に執行できた。 					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況			
			H29年度			
	公衆トイレ設置工事(1棟)	目標	設置工事	—	—	—
		実績	設置工事	—	—	—
		目標				
		実績				
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況			
			H29年度			
	公衆トイレ設置工事(1棟)	目標	工事完了	—	—	—
		実績	工事完了	—	—	—
		目標				
		実績				

事業完了後の取り組み						
成果目標(指標)	達成/進捗状況					
		H30年度	R1年度			R2年度 目標/発現年度
<input type="checkbox"/> 中期にわたる事業効果 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度に発現する事業効果						
市内観光施設入込客数(暦年)	目標	—	—	—	—	5,501千人
	実績	5,126千人	4,935千人	—	—	
	目標					
	実績					
事業完了後の成果目標 状況説明	【H30年度】 ・市内観光施設入込客数は5,126千人となり、達成状況は順調である。					
	【R1年度】 市内観光施設入込客数は4,935千人となり、平成30年より191千人減少する結果となった。					
	【 年度】 ・					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)			
【H30年度】 ・沖縄県への入域観光客が順調に推移していることもあり、市内観光施設入込客数も順調である。今後、当該施設の更なる活用促進が期待できる。			【H30年度】 ・国指定天然記念物となっている「嘉陽層の褶曲」の環境整備が整ったことから、市内観光地として積極的に広報活動を行っていく必要がある。			
【R1年度】 ・「嘉陽層の褶曲」を活用した民間団体による学習プログラムなどが実施されており、当施設があることにより、来訪者の利便性向上に繋がっている。一方、名護市全体の観光入込客数自体が、前年(H30年)より198千人減少していることもあり、市内観光施設入込客数も191千人減少する結果となった。滞在型観光地として認知していただく取り組みを検討する必要がある。			【R1年度】 ・「嘉陽層の褶曲」について、県外高校生などの教育旅行の学習プログラムとしても活用してもらえるよう働きかける。			
【 年度】 ・			【 年度】 ・			
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)						
【H30年度】 ・国指定天然記念物となっている「嘉陽層の褶曲」の環境整備が整ったことから、観光パンフレット、従来の観光案内マップなどで、市内観光地として積極的に広報活動に取り組み、市内観光促進につなげる。						
【R1年度】 ・「嘉陽層の褶曲」について、教育旅行の学習プログラムとしての活用を検討いただくため、教育旅行関係者への周知を行う。						
【 年度】 ・						